

笑顔溢れた 1 週間

星 卓澄 (中学 1 年)

“HAFA ADAI!”この言葉からグアムでの生活が始まりました。

グアムへ向かう飛行機の中では、カウンターパートに会うことに対する期待と不安を抱えていました。案の定、ほぼ英語のみの生活は大変なものでした。カウンターパートの両親はカウンターパートの Anthony よりも速く話すし、Anthony もそれに合わせて速く話すので、そもそも質問されていることに気付かないようなことが度々ありました。しかし、家族は僕がそのような生活に苦戦していることに気付き、少しゆっくり話してくれるようになりました。それにより、僕は家族の会話が少しずつわかるようになり、生活が楽しくなってきました。それまではわからなかったお父さんの素晴らしいジョークも笑えるようになりました。とは言いながらも、いつも帰りの車の中では疲れて寝てしまっていたので、そのジョークが聞けたのも数回でした。

この写真は 5 日目に Chamorro Village で家族と撮った写真で、僕の思い出の写真でもあります。何故これが思い出なのかというと、この写真を撮った後、僕は経験したことのない程の腹痛に襲われたからです。そのため、パーティーを早退することになってしまったのですが、家に帰るとすぐに治り、そのあっけなさに思わず笑ってしまいました。それでも、あの時に早退するという判断をしてくれて、すぐに休ませてくれた家族に大変感謝しています。

最初は、異文化の地で初のホームステイをすることに対する不安を持っていました。やはり、四六時中英語に囲まれる生活は大変厳しく、精神的に疲れるものではありませんでしたが、色々な方のフォローを受けて楽しく過ごすことが出来ました。そのため、終わった後に振り返ってみると、その不安は無駄なものに思えてきました。それほどにグアムでの経験は楽しく、早く過ぎ去っていくものでした。みんなが口を揃えて「帰りたくない」「まだグアムにいたい」という程に早すぎる 1 週間でした。しかし、この 1 週間で得た経験は、その早すぎる 1 週間の記憶の中でしっかりとした存在感を持っています。本当に貴重な体験をすることが出来ました。また、自分を大切に考えて判断し行動してくれたカウンターパートの家族に大変感謝しています。自分達が楽しく笑顔溢れる 1 週間で過ごせたこと、そしてこの派遣に携わった全ての人に感謝の気持ちでいっぱいです。本当に有り難うございました！

